



地球は生きています。

46億年もの昔に生まれました。

はじめは、真っ赤な火の玉のようだった地球は、
いろんな変化をしています。

それは、私たち生き物と同じで、
星の一生を送っているのです。

長い年月をかけて、寒くなったり、暖かくなったり、暑くなったり。

生き物が生まれはじめたのは5億年前くらいといわれています。
爬虫類や恐竜が主だった頃もありました。

そして鳥類、ほ乳類がでてきました。

そして人間が生まれて700万年くらい？

まだまだ地球の歴史にくらべたら、とても最近の事のように思えます。

地球の変化に合わせて生き物たちも、生きるために、
変化をしてきました。

地球の歴史を調べると、
この地球自体が生きている、
他の生き物と同じように、人間もここに
住まわしてもらっているんだなと
感じられました。

2011年3月11日

今も地球上の色々な所で、

地震や火山が噴火したり、

洪水が起きたりしています。

2011年の3月には日本で、大きな地震と津波がありました。

たくさんの泪がこぼれました。

また人の作った原子力発電所が水素爆発を起こし、

放射能が周りに飛び散ってしまいました。

これも未だに放射能が出ている状態です。

今まで暮らしていた所をそのままに、

どこかへ避難しなくてはならない人たち。

こどもたちの命を守るために思う親たちの心。

100歳のおじいさんが絶望して命を絶ったり。

大きな不安と絶望、怒りも生まれました。

2011年3月11日



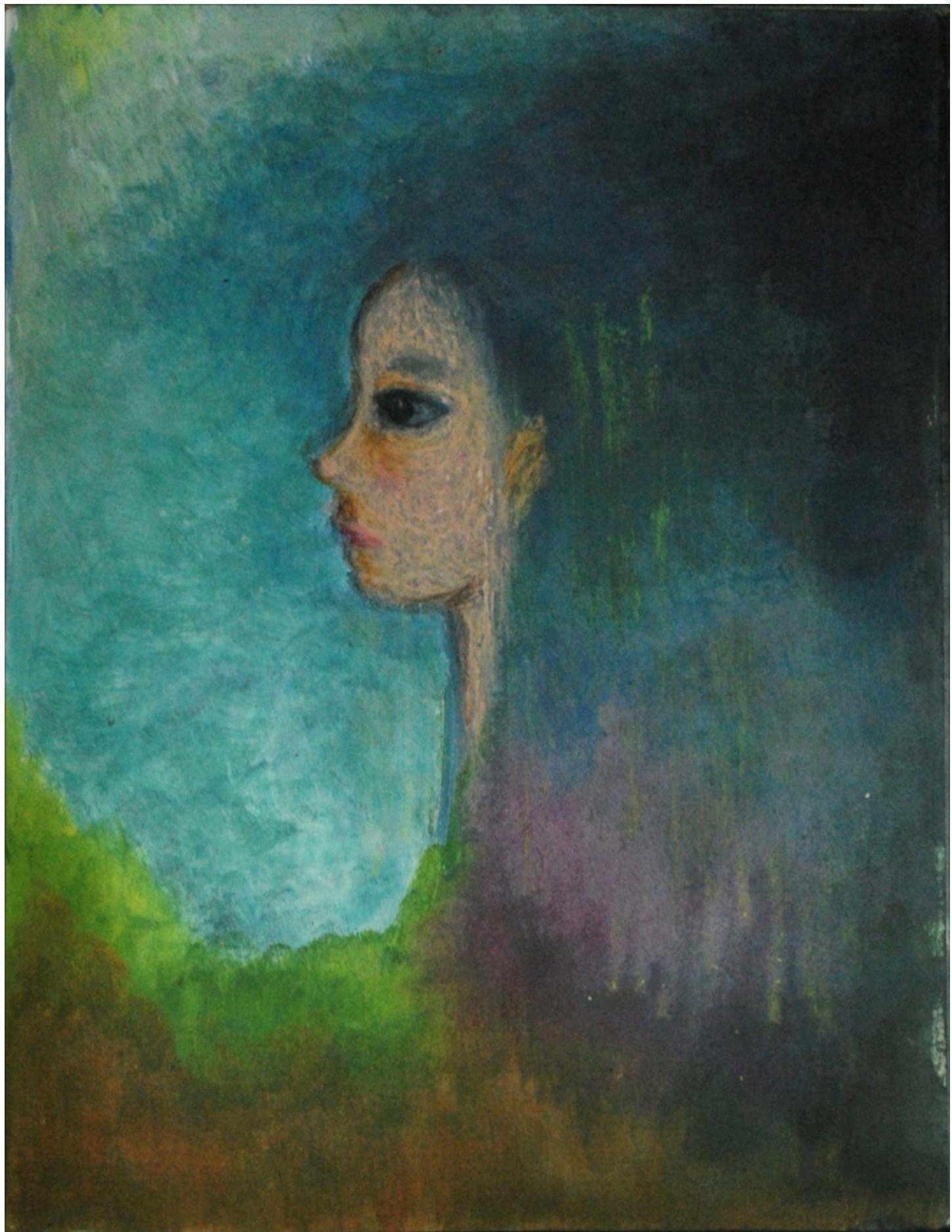
この時の、またその後の事でも、
想いを分かち合いたいのですが、
何か自分が感じたこと話せる人いますか？

残った私たちはどうしたらしいのだろう？

私の想い



生きて



生きて

生きてほしいと強く思いました。
こどもも大人もおじいさんもおばあさんも。
動物たちも。植物たちも。

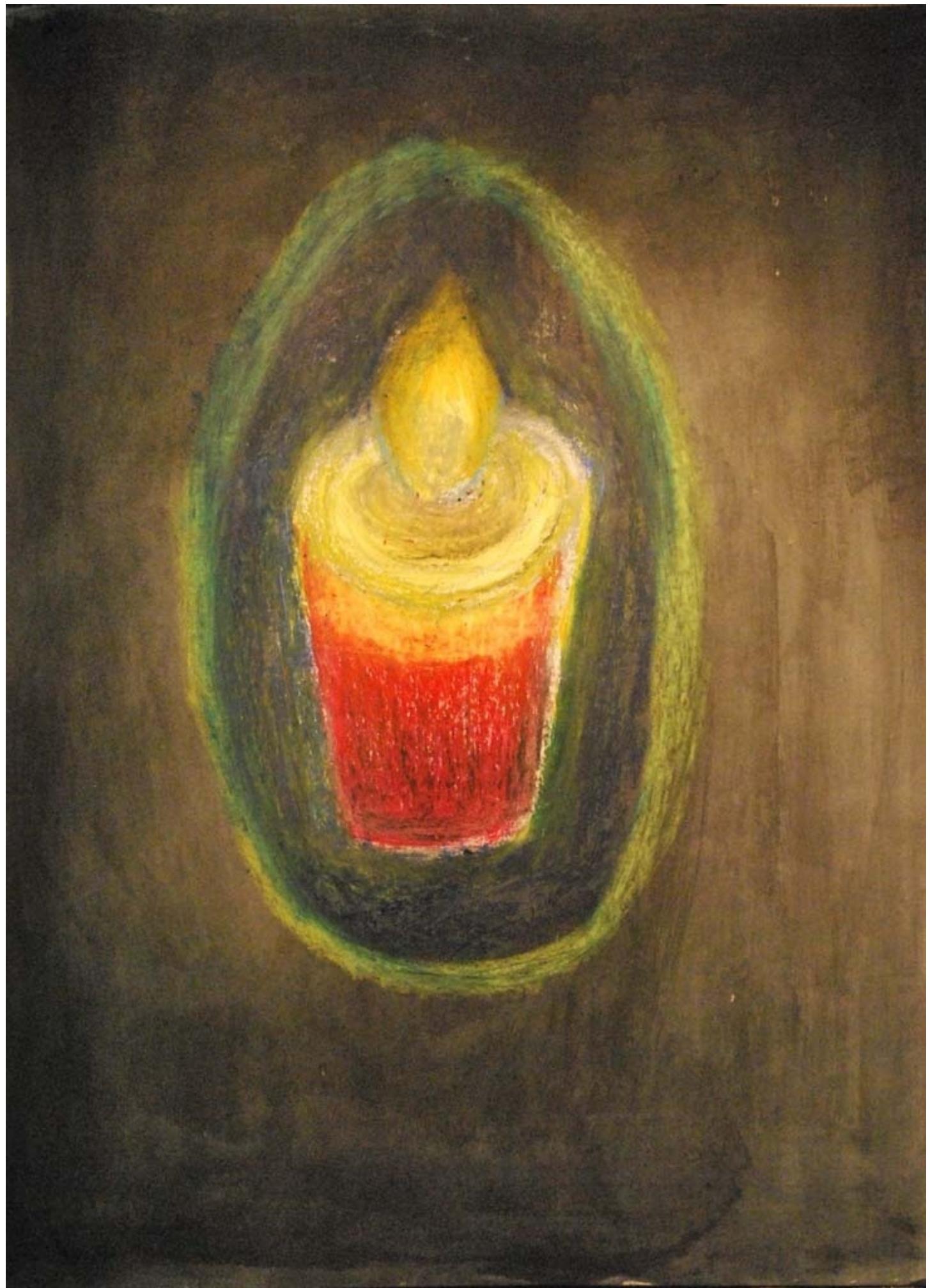
あかり

この震災の後、世界中でたくさんの人たちが、
日本のこの災害にあった人たちを助けたい、
自分も何かをしたいと思いました。
どこかの国の孤児院のこどもたちが、
自分たちへの援助のお金をつかって下さいと、
先生に頼んで、日本大使館にとどけてくれたりしました。

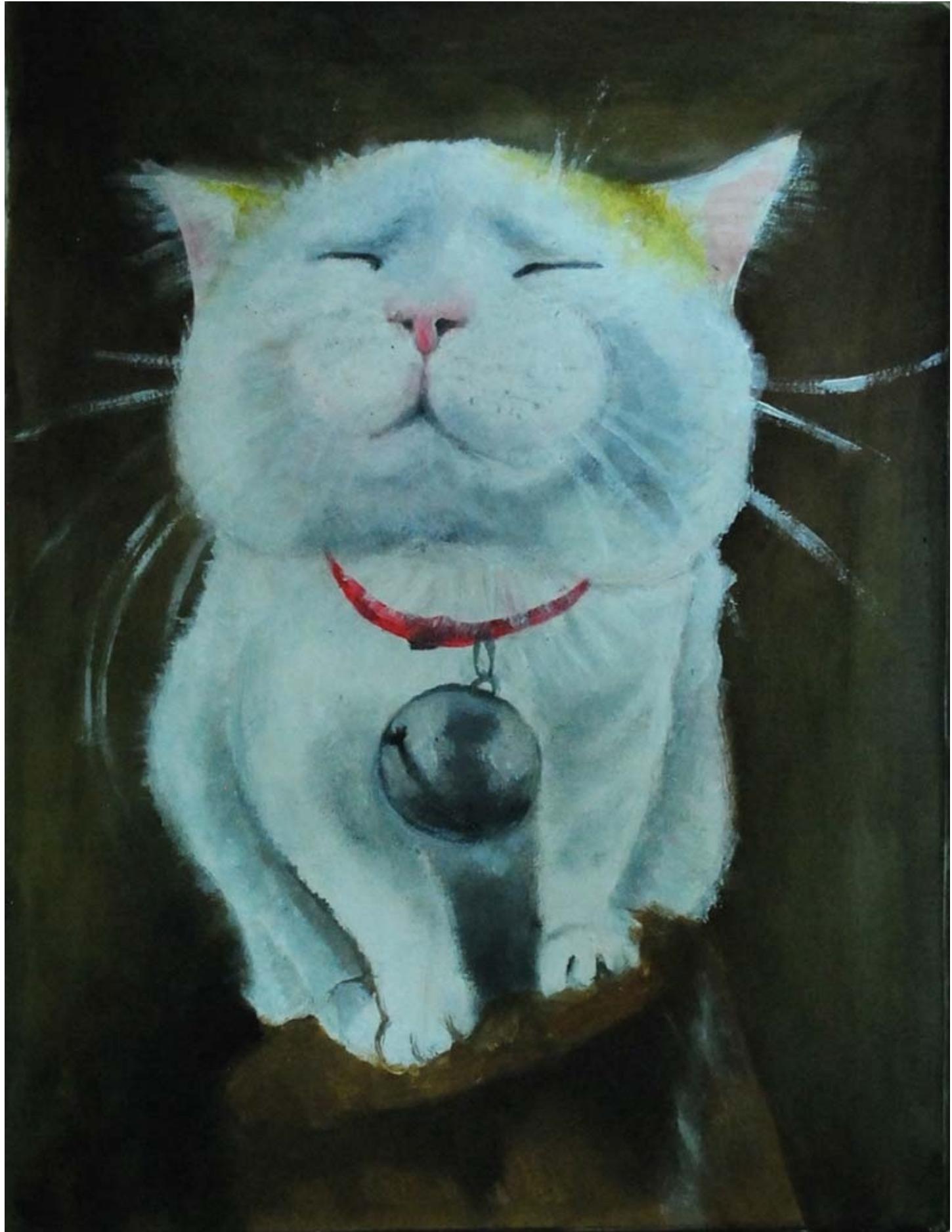
それぞれが、自分に出来る事は何かと悩みながら
毎日を過ごしたりしました。

私たち人間の本当の心
やさしく強い力が
わきだしてきたようです。

あかり



にやお～ん



にやお～ん

皆さんはこの時代に生まれてきた勇気ある

素晴らしい子たちばかりです。

あなたたちはこれから世界が、

どんなふうになれば皆仲良く、

地球とともに生きてゆけるか

知っているのです。

たとえばエネルギーのこと

どうやったら安全に電気をつくれるんだろう？

ちょっと想像してみてください。

あなたのアイディアを話してみてください。

今大人たちもこの震災を機に、
もっと勉強して、
この世界を変えてゆこうとしています。
生命は何よりも大事です。
もちろんお金よりも。
もちろん人間も動物も植物も、
同じ生きています。
大人になっても忘れないでね。
友達といっぱい遊んで、
ケンカして、
仲直りして。
たまに道ばたの猫をじーっと見てみたり。
おじいちゃん、おばあちゃんと話をしたり。
めずらしくお家のごはんをつくってみたり。
夕焼けの空をながめたり。
子どもの時間をわくわく楽しんでください。
この蒼い青い星のもと。



たのしいこと

あとがき

1992年セヴァン・スズキと言う12歳の女の子が、環境と開発に関する国際会議（環境サミット）に

集まつた世界の指導者たちを前に、語ったことばを最後に書いておきます。

こんにちは、セヴァン・スズキです。エコを代表してお話しします。エコというのは、子供環境運動（エンバイロンメンタル・チルドレンズ・オーガニゼーション）の略です。カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるためにがんばっています。あなたたち大人のみなさんにも、ぜひ生き方を教えていただくようお願いするために、自分たちで費用をためて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をしてきました。

今日の私の話には、ウラもオモテもありません。なぜって、私が環境運動をしているのは、私自身の未来のため。自分の未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとはわけがちがうんですから。

私がここに立って話をしているのは、未来に生きる子どもたちのためです。世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

太陽のもとにでるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。呼吸することさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。父とよくバンクーバーで釣りをしたものです。数年前に、体中ガンでおかされた魚に出会うまで。そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。それらは、もう永遠にもどってはこないんです。

私の世代には、夢があります。いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることです。でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないか？あなたたちは、私ぐらいの歳のときに、そんなことを心配したことありますか。

こんな大変なことが、ものすごいきついで起こっているのに、私たち人間ときたら、まるでまだまだ余裕があるようなのんきな顔をしています。まだ子どもの私には、この危機を救うのになにをしたらいいのかはっきりわかりません。でも、あなたたち大人にも知ってほしいんです。あなたたちもよい解決法なんてもっていないっていうことを。オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう

死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。

ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。あるいは、報道関係者か政治家かもしれない。でもほんとうは、あなたたちもだれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、おじなんです。そしてあなたたちのだれもが、だれかの子どもなんです。

あとがき

私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです50億以上の人間からなる大家族。いいえ、じつは3千万種類の生物からなる大家族です。国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして行動しなければならないことを知っています。私は怒っています。でも、自分を見失ってはいません。私はこわい。でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私はおそれません。

私の国でのむだづかいはたいへんなものです。買っては捨て、また買っては捨てています。それでも物を浪費しつづける北の国々は、南の国々と富をわかちあおうとはしません。物がありあまっているのに、私たちは自分の富を、そのほんの少しでも手ばなすのがこわいんです。

カナダの私たちは十分な食べものと水と住まいを持つめぐまれた生活をしています。時計、自転車、コンピューター、テレビ、私たちの持っているものを数えあげたら何日もかかることでしょう。

2日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。ひとりの子どもが私たちにこう言いました。

「ぼくが金持ちだったらなあ。もしそうなら、家のない子すべてに、食べものと、着るものと、薬と、住む場所と、やさしさと愛情をあげるのに。」

家もないひとりの子どもが、わかちあうことを考えているというのに、すべてを持っている私たちがこんなに欲が深いのは、いったいどうしてなんでしょう。

これらのめぐまれない子どもたちが、私と同じぐらいの歳だということが、私の頭をはなれません。どこに生れついたかによって、こんなにも人生がちがってしまう。私がリオの貧民街に住む子どものひとりだったかもしれないんです。ソマリアの飢えた子どもだったかも、中東の戦争で犠牲になるか、インドで物乞いをしていたかもしれないんです。

もし戦争のために使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決するために使えばこの地球はすばらしい星になるでしょう。私はまだ子どもだけどそのことを知っています。

学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに、世のなかでどうふるまうかを教えてくれます。たとえば、

* 爭いをしないこと

* 話しあいで解決すること

* 他人を尊重すること

* ちらかしたら自分でかたづけること

* ほかの生き物をむやみに傷つけないこと

* わかちあうこと

* そして欲ばらないこと

ならばなぜ、あなたたちは、私たちにするなということをしているんですか。

なぜあなたたちが今こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。そしていたいだれのためにやっているのか。それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。みなさんはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち生きていくのかを決めているんです。

親たちはよく「だいじょうぶ。すべてうまくいくよ」といって子どもたちをなぐさめるものです。あるいは、「できるだけのことはしてるから」とか、「この世の終わりじゃあるまいし」

とか。しかし大人たちはもうこんななぐさめの言葉さえ使うことができなくなっているようです。おききしますが、私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。

父はいつも私に不言実行、つまり、なにをいうかではなく、なにをするかでその人の値うちが決まる、といいます。しかしあなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。あなたたちはいつも私たちを愛しているといいます。しかし、いわせてください。もしそのこ**とば**がほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめしてください。

最後まで私の話をきいてくださってありがとうございました。

(翻訳：ナマケモノ俱楽部)

2011年 地球にて

<http://p.booklog.jp/book/49808>

著者 : Yuko Umehara

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/samadhi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/49808>

ブクログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/49808>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.